

ポジショニングベッド を使用した患者様の 症状改善事例集



プラッツの医療施設用電動ベッド
「P300シリーズ」を導入いただいた
病院様・施設様にお話をうかがいました

医療施設

- 医療誠愛会グループ 佐世保記念病院 様
- 医療法人和仁会 東福岡和仁会病院 様
- 長崎県病院企業団 長崎県五島中央病院 様
- 医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院 様

介護施設

- 特定医療法人檜山会 介護老人保健施設うぐいすの丘 様

“食事量がアップして
経管栄養を外すことができました”

01

医療誠愛会グループ 佐世保記念病院 様

1980年11月に「鹿子前病院」として開設、地域住民の療養と社会復帰に向けたリハビリテーションを担う、161床を有する病院です。

坂元看護部長と横山看護師長にお話をうかがいました。

患者様の身体状況

- ・ 頸部が後屈している
- ・ 経管栄養を行っている
- ・ 誤嚥性肺炎のリスクが高い

ベッド導入後の様子

- ・ 頸部の後屈が改善された
- ・ 食事が出来るようになり、経管栄養を外すことができた
- ・ 口腔ケアがしやすくなり、誤嚥による発熱が減少した
- ・ 車いすの座位姿勢が改善した
- ・ 会話が增え、昼夜のメリハリがつき睡眠時間が長くなった

ある患者様は施設で誤嚥性肺炎を繰り返して、施設からは「看取りに近い」と言われるような状態でこの病院に転院してきました。転院されてきたときは入れ歯があつておらず、口の中が汚い状態で口腔ケアが必要な状態でした。また、首が後屈しており、誤嚥性肺炎の危険性が高い状態にありました。当初はとても衰弱しており経管栄養をせざるを得ない状態で、あごを下げるためにバスタオルを使っていたのですがどうしてもずれてしまい、本人も違和感があるせいか嫌がっていました。

しかしベッドを替えてハイバックサポート機能を使うようになってからは、少しずつあごが下がってきて、ペースト状の食事を試したところ食べることができるようになり、だんだん食事量がアップして経管栄養を外すことができました。

2か月後にはあごがしっかり下がって3食きちんと食べられるようにまですなりました。おしゃべりも盛んになって昼夜のメリハリもつくようになり、夜も眠れるようになっています。その患者さんは近々施設に戻れる予定です。

経管栄養をしているその他の患者さんでも、ハイバックサポート機能を使うようになってから だんだんあごが下がってきて唾液の誤嚥が少なくなり、発熱することが少なくなりました。自然に前を向けるので、誤嚥を防ぐことができていると思います。



横山看護師長、坂元看護部長

佐世保記念病院様の看護部は「ゆっくり」「じっくり」「しっかり」を基本理念とし、患者様のペースを大事に、ベッドサイドに寄り添い、コミュニケーションを意識して信頼感を高めることを徹底しているということでした。

実際に患者様が食事をされる際、同じ目線の高さでずっと話しているスタッフを見かけました。患者様やご家族の意思や願いを大事にすることは、基本的な部分ではありますが、とても大事なことだと思います。また、ベッド上では背抜きをしっかり行い、患者様が安楽に過ごせるよう意識されていることも印象的でした。



屋上庭園から望む九十九島

医療法人 和仁会 東福岡和仁会病院 様

福岡市の東部地域の医療と介護を担う、199床を有する療養型病院です。

坂田看護部長、中井看護師長、言語聴覚士の木村様、松尾事務長にお話をうかがいました。

“このハイバックサポート機能なら
私たちの思いに応えてくれるのでは

患者様の身体状況

- ・ 顎の関節が脱臼しやすい
- ・ ゼリー食
- ・ 誤嚥による肺炎・発熱がある
- ・ 頸部が後屈している

ベッド導入後の様子

- ・ 誤嚥による肺炎・発熱がなくなった
- ・ しっかり食事を摂れるようになった
- ・ 嚥下機能が改善し、むせがなくなった
- ・ 表情が良くなった

介護病棟では3分の2の患者さんが経管栄養を行っているのですが、「なんとか口から食べていただきたい」という思いを常に抱いて患者さんに接していました。これまでは患者さんが誤嚥しないよう安全に食事していただくため、枕などで首の角度を何度も何度も試行錯誤して調整していましたが、これといった解決法にはたどり着けていませんでした。

ベッドを見たとき、まず目に留まったのがハイバックサポート機能です。このハイバックサポート機能なら私たちの思いに応えてくれるのでは？という期待感のもと、お二人の患者さんで試させていただきました。

お一人は要介護度5の方で、顎の関節が脱臼しやすく、誤嚥を繰り返しており、ゼリー食で対応するしかありませんでした。ですがハイバックサポート機能を使うようになって、数日間後には誤嚥による肺炎や発熱もなくなり、しっかり食事を摂れるようになりました。これは期待以上の効果でした。もう一人の患者さんでは水分を取る時にむせがなくなって、嚥下機能が改善しました。

ST（言語聴覚士）を交えてこのベッドを検討したのですが、枕などではできなかった頭部前屈時のポジショニングがうまくできるようになり、頸部が後屈した患者さんのむせや誤嚥が改善したり、表情の改善などのメリットを感じることができました。また、ベッドの移動に関しても、6か所から一括ロックができる大型キャスターの搬送性が良く、業務効率向上が期待できることから購入を希望しました。



言語聴覚士の木村様、松尾事務長、中井看護師長、坂田看護部長

坂田看護部長は「東福岡和仁会病院の看護部は『やさしさ』が売り」と仰っていました。いわゆる「病院っぱい雰囲気」ではなく、スタッフの方々がお互いに優しく接することができる職場のようです。それが「何よりもいたわりの心で」という看護部のモットーを、地域医療への貢献、普段の患者様へのケアで実現できているのだと感じました。

“急性期から嚥下にも積極的にアプローチする医療機関として



03

長崎県病院企業団 長崎県五島中央病院 様

1877年に郡立病院として設立され、五島市全体をカバーする中核病院として高度医療から医療福祉の教育研修までを担う、304床を有する病院です。

摂食・嚥下障害看護認定看護師の久保様にお話をうかがいました。

患者様の身体状況

- ・ 食事動作時に手が上手く使えていない
- ・ 頸部後屈の姿勢となりむせやすい

ベッド導入後の様子

- ・ 食事動作時に上肢が動きやすくなった
- ・ 頸部の筋緊張が解け、嚥下しやすくなった
- ・ 食事時の視線が前を向くようになった
- ・ ポジショニングが行いやすくなった

今までは食事中に腕が下がったままだった患者様が、ハイバックサポート機能を使って食事をしたところ手の動きがすごく出るようになりました。通常の背上げをした状態では骨盤の位置で身体のバランスを取ることになるので、体幹が不安定な方はどうしても身体が緊張してしまいます。それに比べハイバックサポート機能を使用した背上げは、肩甲骨のあたりで身体の重みを一旦受け止めることで安定化が図れるので、上肢が非常に動きやすくなりました。

これは嚥下にもつながっていて、頸部の筋肉の過度な緊張を生まずに済むので、飲み込みがしやすくなります。また、食事動作を獲得する上でも、上肢が使えるということは非常に大きなメリットです。自分の手で食べていただくことが一番理想的な嚥下を引き出しやすいので、上肢の動きをサポートしてくれるというのは、嚥下という点についてはすごく優れていると思います。ST（言語聴覚士）にとってはすごく魅力的なベッドではないでしょうか。

それに少し頭が上がることで、視線が食事に向きやすくなります。頸部前屈位をとっても、どうしても視線が上に、天井の角を見るような感じになってしまいますが、ハイバックサポート機能で肩甲骨のあたりから上げた状態で頸部前屈位をつくと、テーブルも見やすく、手も動かしやすくなります。患者様にとって食事を視認して「食べる」という認識を促すことは重要で、看護師が食べさせるのではなく、患者様自身が口に運ぶ動作をサポートすることができます。



嚥下チームのメンバー



週に一度行っている院内ラウンド

リハビリや食事場面の中で頸部前屈位・頭部前屈位を患者様に取っていただくことが多いですが、ハイバックサポート機能を使ってある程度角度をつけることができるので、ポジショニングは非常にやりやすくなりました。もちろんクッションを使う方法もありますが、角度を設定できるのでスタッフ間で統一を図れるというのが大きいです。ベッドへ戻ってきた時に、その度にクッションを用意して、当てなおして、となると大変ですが、ある程度基盤となる脊柱を支える部分の角度はベッドを使って固定できるので、ポジショニングが行いやすいですし、スタッフもいろいろ考えずとも指示がシンプルに終わるので、共有がしやすくなりました。

患者様の身体状況

- 仙骨部に褥瘡の発生リスク
- ポジショニング時のずれが起りやすい

ベッド導入後の様子

- 褥瘡発生の予防
- ポジショニング時のずれが少ない
- 長時間の背上げでも過ごしやすい

また、ある患者様は（P300とは）別のベッドで過ごしてもらったところ仙骨部に褥瘡が発生しかけましたが、ベッドを（P300に）替えケアしたところ発生を防ぐことができました。頸椎損傷の患者様は体動が難しいので通常の背上げをただけだと仙骨部に褥瘡ができやすくなります。ですがハイバックサポート機能を使うと、上体の重みを一旦肩甲骨あたりで受けとめ、腹部から臀部にかけての重みを骨盤で受けとめるというように、体圧分散がうまく出来ているのだと思います。またベッド上のポジショニングのずれこみが起りやすいのですが、上肢の重みを一旦肩甲骨のあたりで受けることができているためか、ずれこみが少なく、長時間背上げをしても過ごしやすいようです。



エアマットレスを使用する際も、自動体位変換機能のついたものは厚みが大きくなるため高さの低いサイドレールだと転落に対して不安がありますが、P300はサイドレールが高く設計されているので問題なく使用できます。サイドレール間・サイドレールとボードのすき間も狭くなっているため、患者様が無理にベッドから立ち上がろうとして転倒してしまうリスクも低減できていると思います。

他にも、腹膜透析や経管栄養を行っている患者様で座位が取れない方の姿勢保持にも役立っています。クッションを使ってポジショニングを行うとずれやすく、次に巡回した際にはクッションが外れサイドレールに身体がもたれかかっているというようなことがありました。ハイバックサポート機能を使えば角度の微調整がしやすく、ずれもなく、ポジショニングが行いやすくなりました。

病院だけでなく行政も含めた、地域に根差した活動も担っておられます。院外の ST が回診チームに参加しているのも特徴で、在宅への訪問もされているので急性期から在宅に帰るまでを経過を見ながらフォローアップできるというのは大きな強みとのことです。

医師、認定看護師、ST、管理栄養士、病棟看護師が嚙下チームを組み、週に一度院内ラウンドを実施し食事内容やケアの方法を検討されています。患者様に対する職種を超えたスタッフ同士の連携や、「この病院が動かなければ島の医療は成り立ちません」という言葉が非常に印象的でした。



病室から望む鬼岳

04

医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院 様

佐賀県最大級の広さのリハビリテーション室と約80名のリハビリ専門職で、地域の医療と在宅復帰を担う、96床を有する病院です。

言語聴覚療法課の高原課長、看護部の小副川副部長にお話をうかがいました。

“患者さん目線で良いというのはもちろん
スタッフ目線でも非常に楽なベッドです”

患者様の身体状況

- ・ クッションがずれる
- ・ ポジショニングの再現が難しい
- ・ 患者様がクッションを嫌がる

ベッド導入後の様子

- ・ ポジショニングのずれがなくなった
- ・ 左右のバランスが調整しやすくなった
- ・ 患者様がポジショニングを嫌がらなくなった
- ・ 身長の高い患者様のポジショニングが楽になった

このベッドを初めて見たのは院内の研修会だったのですが、ST（言語聴覚士）としてはヘッドアップ（ハイバックサポート）機能と、食事介助の体勢のセッティングのしやすさがこれまでのベッドにはなく、画期的だと思いました。

また患者さん目線で良いというのはもちろん、スタッフ目線でも非常に楽で、業務がしやすいベッドです。スタッフの中ではキャスターのブレーキ（センターロック機構）と、高さ調節、細かいセッティング（フィッティング機構）についての評価が良かったです。



小副川副部長、高原課長

食事介助の際は、枕やバスタオルやクッションを使って体勢をセッティングしていくのですが、最後の微調整の際に、先に入れたクッションなどがズレてしまっていました。このベッドならそれがスイッチひとつで調整できるので、最後のズレが起きないで済みますし、首だけが上がるのではなく全体で上がるので、左右のバランスも調整しやすいです。

看護師は（上記のような）ポジショニングを言語聴覚士さんから聞いて行うことがあるのですが、今までは（再現が）難しかったのですが、このベッドのおかげで楽になったと思います。枕など1点であげると患者様も意識してしまい、嫌がったり、ずらしたりしてしまうのですが、それもなくなりました。

嚥下障害があり口から食べる練習をしている方や、首が後屈している方にも使用しています。意識障害があり呼吸がしにくい方は、口を開けて気道を広げるために首が後屈してしまうケースがあるのですが、そういう場合のセッティングでも使われています。昔に比べて身体が大きい患者様も増えましたが、その際のポジショニングも、曲がる位置をずらす機能（フィッティング機能）を使って、楽にできるようになりました。ポジショニング全般に役立ってます。

「医療の職場環境は過酷である」と言われる中、高原課長の「働きやすいですよ、ウチは!」という言葉がとても印象に残りました。飯盛事務長のもと、育児休業制度の推進やノー残業デー、敷地内への保育園の設置など「働き方改革」に取り組んでおられます。また院内の様々な場所には絵画やデザイン性の高い備品などが配置されており、働きやすい制度と環境で、良いケアを提供されていると感じました。



木のぬくもり溢れる「夢っこ保育園」



05

特定医療法人 檜山会 介護老人保健施設うぐいすの丘 様

中澤病院の併設機関として開設し地域の在宅復帰と機能回復訓練を担う、100床を有する介護老人保健施設です。

理学療法士の山崎様にお話をうかがいました。

“いろいろな方に活用ができる
オールマイティなベッドだと思います”

利用様の身体状況

- ・ 頸部が後屈している
- ・ 側臥位しかできない
- ・ 唾液・痰の誤嚥による発熱がある
- ・ 食事機能が低下している

ベッド導入後の様子

- ・ 仰臥位のポジショニングが可能になった
- ・ リラックスした姿勢により、頸部の反り返りが改善した
- ・ 唾液の誤嚥による発熱が減少した
- ・ 車いすの座位姿勢が改善した
- ・ 食事がむせずに時間もかからず出来るようになった

その利用者様は小柄な方で円背が強く頸部の後屈があり、あごが出て首があがってしまっていて、側臥位しかできていない状況でした。リハ室では少しでもストレッチになるようにと、短い時間でもなんとかして仰臥位を取らせていました。でも私たち(リハビリスタッフ)が関わる時間というのは限られているので、これが夜間でもできたら、1時間でもできたら、という思いがずっとありました。

ベッドを実際に使ってみると、(フィッティング機能やハイバックサポート機能等)全部がいい具合に調整ができました。少ないクッションの数で、職員も自分たちでポジショニングができるようになって、その方は仰臥位ができるようになりました。

ご本人もリラックスして休むことができるようになり、頸部の反り返りが改善されてきています。側臥位でもまくらだけではなく(ハイバックサポート機能で)頭部を上げることができるので、唾液の流出もさせやすくなり、唾液の誤嚥による発熱も減ってきました。車いす座位の姿勢もよくなり、食事機能が低下してきていましたが、むせずに時間もかからずできるようになっています。

別の方は、風邪で痰が増え誤嚥性肺炎を起こしてしまっていて、また痰が増えそれを誤嚥しそうな状態で、臥床時にむせてしまっていました。ベッドをかえたところ、ポジショニングで痰の流失を促すことができるようになりました。それにより吸引ブラシで対応することができ、状態が落ち着かれました。

今まではたくさんのクッションを使ったりバスタオルで調整したり、それを写真にとってベッドサイドに置いたりしてすごく苦労してポジショニングをしてきたところでした。それが簡単にできるようになり、効率が良くなりましたし、なおかつそんなに技術が無くても上手にできるようになりました。いろいろな方に活用ができるオールマイティなベッドだと思います。



理学療法士の山崎様

ケア目標として「美しい身体・健やかな身体・自立した身体・楽しむ身体・社会的な身体」の5つを掲げチームアプローチを大切にされています。これは利用者様を中心にチームでケアをするなかで、それぞれの専門職を生かしてする仕事もあれば、協働できる部分も必ずあるからだと言っていました。

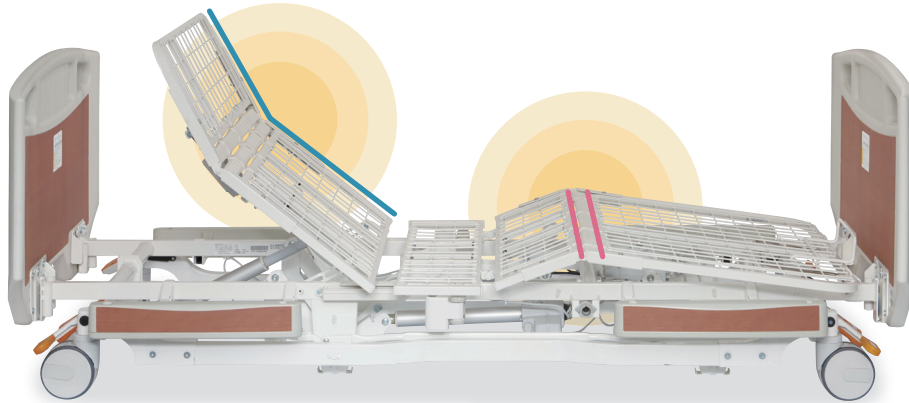
今回お話を伺った「ポジショニング」についても、理学療法士である柿田副施設長のもと、リハビリスタッフだけでなく看護・介護スタッフにもリハビリ理念が浸透し意識が共有できているからこそ、利用者様へのきめ細やかなケアにつながっているのだと感じました。



施設内は様々な花が咲き誇ります

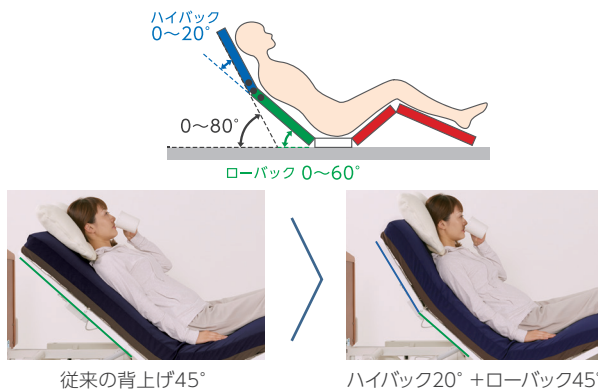
背上げ時のズレカの緩和と安楽な姿勢を実現する

ポジショニングベッド P300 シリーズ



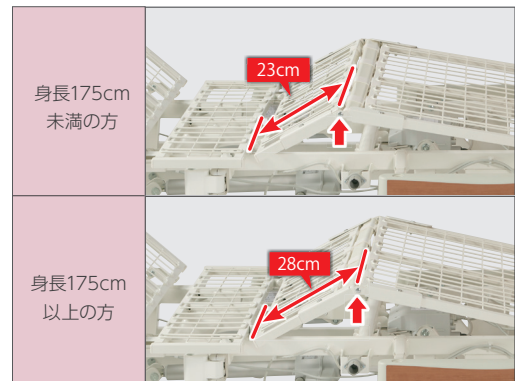
新しい背上げ ハイバックサポート機能

背上げを「ハイバック」と「ローバック」に分割し、それぞれの角度を電動で自由に調節できます。ベッド上の姿勢づくりをサポートします。



ひざ位置のフィッティング機能

大腿部の長さに合わせて、パーツ変更なしでひざ脚ボトムの屈曲位置を2段階に調節可能です。ズレの少ない快適な背上げをサポートします。



どこからでも操作可能な 一括ロックキャスター

6か所にロックペダルを搭載しているので設置場所を問わずロック操作ができ、スタッフの業務効率向上、負担軽減につながります。



医療・介護ベッドメーカー
株式会社 **プラッツ**
<http://www.platz-ltd.co.jp/>

■本社/ショールーム
〒816-0921 福岡県大野城市仲畑2-3-17 TEL 092-584-3434 FAX 092-584-3436
●北海道営業所: TEL 011-807-4750 ●東北営業所: TEL 022-781-7072
■関東支店: TEL 03-5427-8033 ■東海支店: TEL 052-704-2700
■関西支店: TEL 072-943-2723 ■中四国支店: TEL 084-946-6000
■九州支店(本社内): TEL 092-584-3433

